

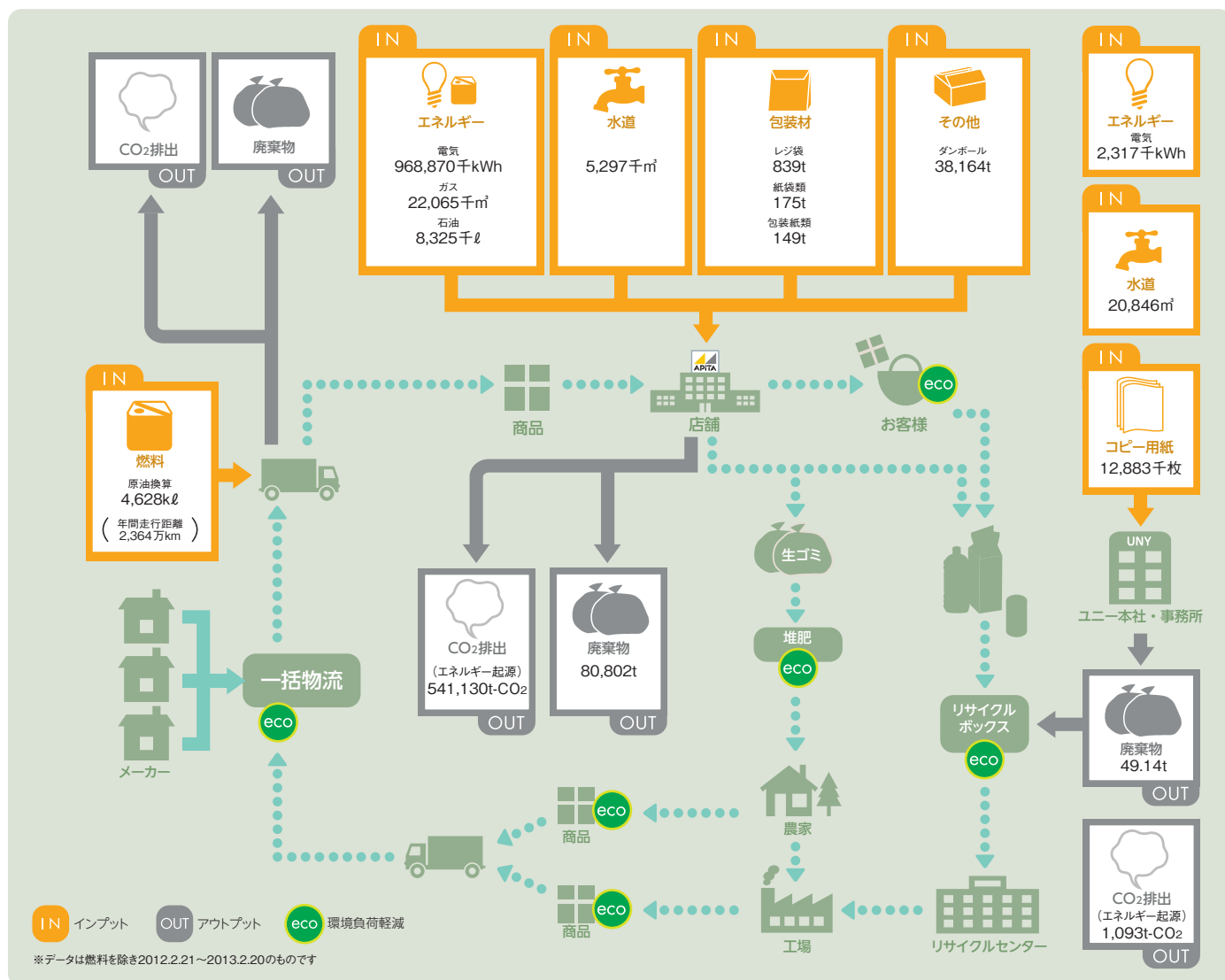
低炭素社会 環境負荷

企業は事業活動（事業所の維持・商品の輸送など）をするうえで、地球環境にマイナスの影響を及ぼしています。これを環境負荷といいます。ユニーはこれらの環境負荷をできるだけ出さないよう、継続的に軽減していくよう、その原因を調べ対策を考え行動していくことを、従業員や関係者がそれぞれの役割の中で実践しています。

事業活動における環境負荷

ユニーの事業活動の中で環境負荷の大きな原因は、店舗でのエネルギー使用です。店舗では、照明や空調・食品の冷蔵・冷凍の陳列ケースなどに電気やガスなどのエネルギーを使います。また、商品の輸送や冷蔵・冷凍保管の倉庫などでも多くのエネルギーを使用しています。これらのエネルギーは化石燃料（石油、石炭、天然ガスなど）から得ているため、地球温暖化の原因といわれているCO₂などを排出しています。それ以外にも、店舗から排出する廃棄物やお客様が商品と一緒に持ち帰る容器包装も大きな環境負荷の原因になります。

ユニーでは、これらの原因を明らかにし、環境負荷の低減に努め、エコ・ファースト企業として持続可能な社会を目指します。



IT物流本部 物流部長
村井 秀紀

環境負荷削減に向けて商品を店舗に配送する場合、車両台数削減（店舗混載）に努めています。また、備蓄商品等センターでピッキングするものは、できるだけオリコン（通箱）や入荷ダンボールなどで配送し、ダンボール削減にも努めています。結果、以下の通りになりました。

- エネルギー使用量は、原油換算で4,628kℓ、前年比101.3%
 - 輸送量は、4,400万tkm、前年比102.3%（輸送距離2,364万km）
 - エネルギーの使用にともなって発生する二酸化炭素の排出量 12,300t-CO₂、前年比101.3%、ただし、原単位では99%と前年を下回っている。（エネルギー使用量／輸送量）
 - ダンボール購入金額（弥富購入分）は、26,485,421円、前年比141%
- センター間の輸送の増大と関東地区の日雑のセンター化により輸送量が増え、エネルギー使用量が増加しました。ダンボール購入金額（弥富購入分）が大幅に増加した要因は、靴のセンター化が増えたためです。

ユニーグループのホールディングス化にともない、サークルKサンクスとの物流統合によるさらなる物流の効率化に向けて、センター統合計画を進めています。